

守山企業景況調査報告書

(第10回)

平成24年1月～平成24年3月期 実績

平成24年4月～平成24年6月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 24 年 1 月～平成 24 年 3 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	20	100.0%
製造業	13	13	100.0%
建設業	12	13	100.0%
サービス業	20	20	100.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	71	100.0%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 24 年 1 月～平成 24 年 3 月、見通しを平成 24 年 4 月～平成 24 年 6 月とし、調査時点は平成 24 年 3 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 24 年 1 月～3 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 24 年 1 月～3 月期の調査結果では前回調査に比べて、売上高 DI が上昇、業況 DI がほぼ横ばい、採算（経常利益）DI と資金繰り DI が下落という結果になった。また、4 月～6 月期見通しでは、業況、売上高、採算（経常利益）、資金繰りの 4 指標全てで下落となっている。

<業況>

平成 24 年 1～3 月期の業況は▲30.4 と前回調査に比べて 0.1 ポイントの下落となった。業種別では、小売業が 17.9 ポイント下落、製造業は横ばい、建設業が 48.3 ポイントの上昇、サービス業で 14 ポイント下落、卸売業は横ばいとなった。

平成 24 年 4 月～6 月期の見通しでは、▲36.4 ポイントと 1～3 月期に比べても 4 ポイント下落となっている。

<売上高>

売上高の 1～3 月期の DI 指数は▲23.9 であった。前回調査に比べると、3 ポイントの上昇である。業種別には、小売業が 20 ポイントの下落、製造業は 23.1 ポイントの上昇、建設業が 48.3 ポイントの上昇、サービス業は 18.9 ポイントの下落、卸売業は 16.7 ポイント上昇であった。

平成 24 年 4 月～6 月期見通しでは、▲30.9 と 1～3 月期に比べて 7 ポイントの下落となった。

<採算（経常利益）>

採算は全体で▲44.9 となり、前回調査より 12.1 ポイント下落した。小売業 30.6 ポイント下落、製造業が 15.4 ポイントの下落、建設業が 35 ポイントの上昇、サービス業が 21.1 ポイントの下落、卸売業は変化なしとなっている。

平成 24 年 4～6 月期の見通しは▲46.4 と 1.5 ポイントの下落となっている。

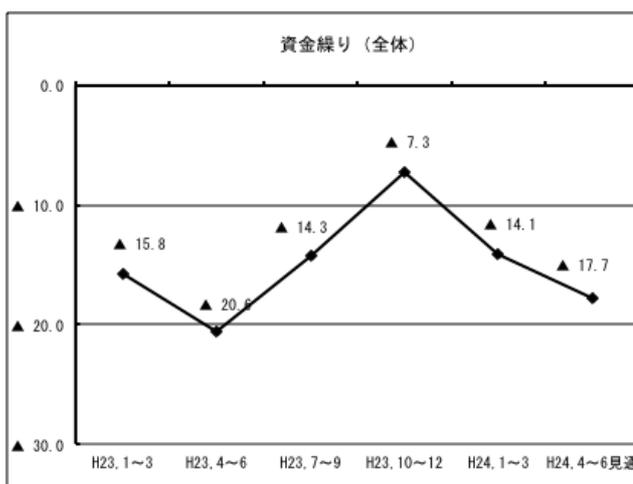
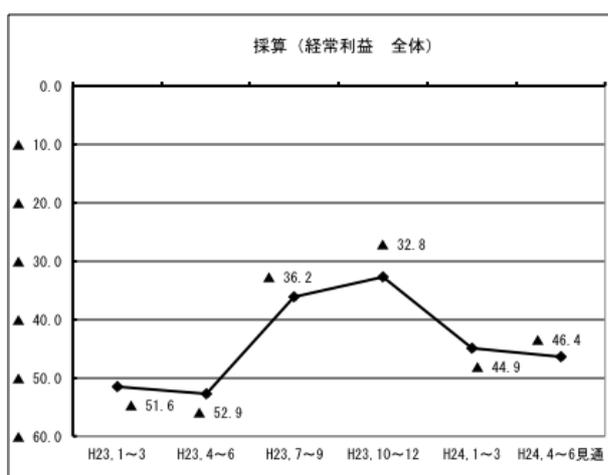
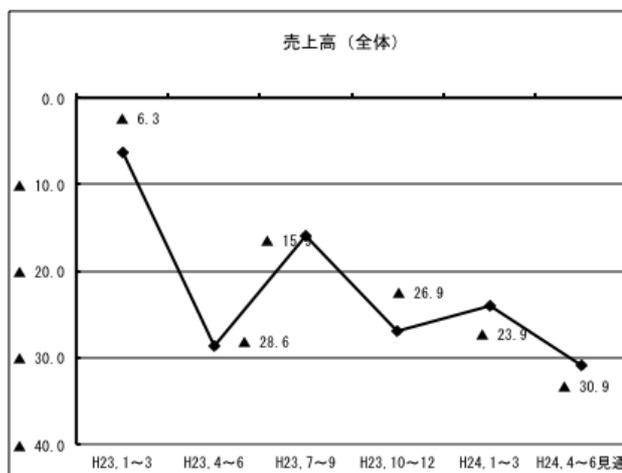
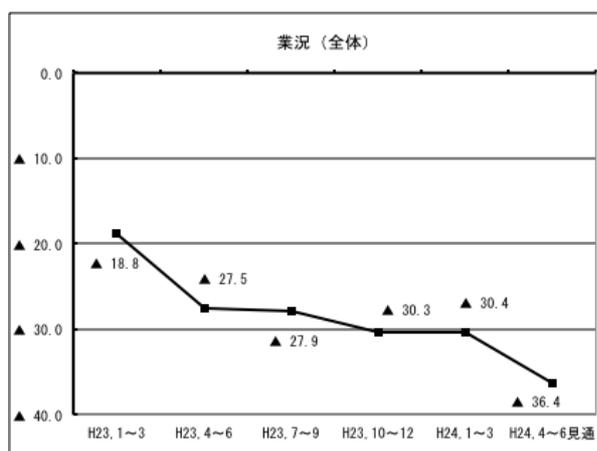
<資金繰り>

資金繰りの DI 指数は▲14.1 となり、前回調査の▲7.3 と比べると 6.8 ポイントの下落になっている。業種別では、小売業が 29.4 ポイント下落、製造業が横ばい、建設業は 10 ポイント上昇、サービス業が 2.4 ポイント下落、卸売業は 3.3 ポイント上昇となっている。

平成 24 年 4～6 月期の見通しは▲17.7 と 3.6 ポイント下落している。

<その他の意見>

- ・円高対策や法人税率の見直し等を考えてもらいたい。
- ・消費税の増税反対。
- ・中東情勢の不安による原材料価格の上昇が収益を圧迫している。
- ・製造業は海外移転が激しく、下請の切り捨てが今期以降たくさん出るのではないかとと思われる。
- ・少し景気が好転している感じがする。
- ・政治の不安手、原油価格の高騰、東北大震災の影響、北朝鮮の動向等日本を取巻く環境に先行きの不安定さを感じる。何とかしてもらいたい。
- ・日本経済の低下と国際競争力の低下、国民の志気を考えると「良い」とは言えない。一から出直すつもりでがんばるしか方法がないと思う。
- ・中小零細企業のあり方が日本経済の方向を決めるかもしれない。政治、行政の中小企業振興策をお願いしたい。
- ・増税は中小企業の息の根を止めると思う。「歳入庁」より「歳出庁」を作り、出るを制する政策を望む。



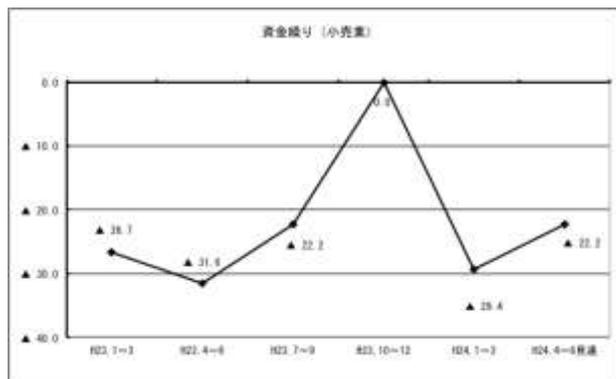
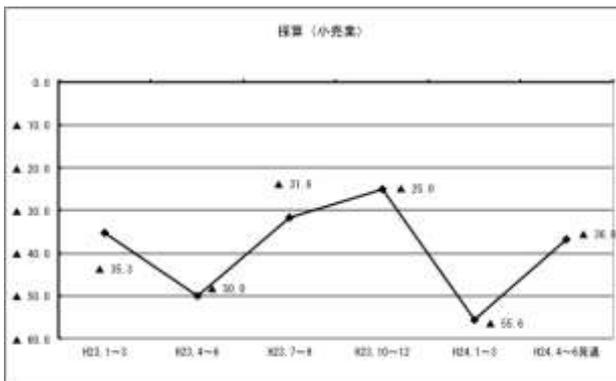
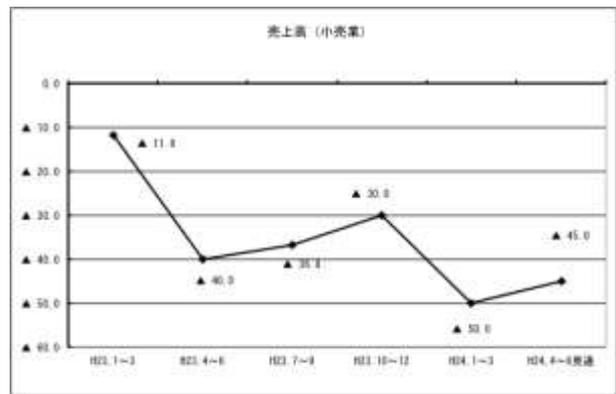
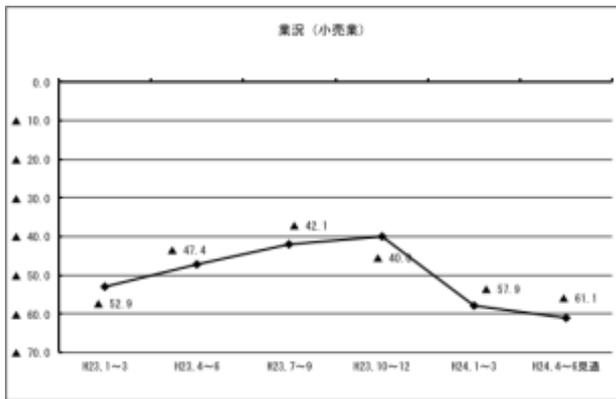
小売業

小売業の1～3月期の業況DIは▲57.9と前回調査の▲40.より17.9ポイント下落した。前回調査まで3四半期連続で上昇していた業況DIであるが、今回調査で一気に過去1年で最低の結果になった。売上高DIも前回調査まで2四半期連続で上昇していたが、今回調査では▲50.0と過去1年で最低となった。

採算（経常利益）DIでも▲55.6と過去1年で最低となり、資金繰りDIだけが▲29.4と過去1年で最低にならなかったものの前回調査よりも9.4ポイント下落するという結果になった。

特に売上高は平成23年10月～12月期との比較および平成23年1～3月期との比較の両方で調査対象の半数以上が「悪い」と回答しており、直後の原因はこのあたりにあるように思われる。

また、平成24年4～6月期見通しでは、売上高DIは▲45.0とわずかに上昇を見せているものの、業況DIは▲61.1と下落は止まらない見通しとなっている。一方で、採算DIは▲36.8と改善、資金繰りも▲22.2と改善の見通しとなっている。



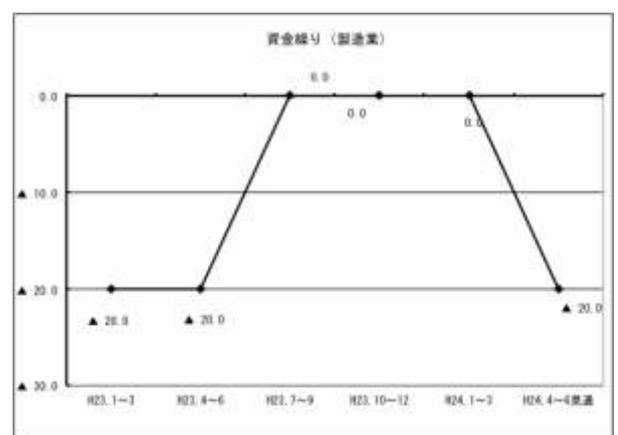
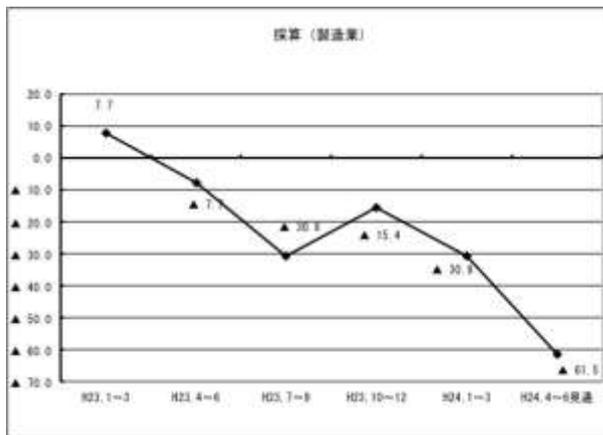
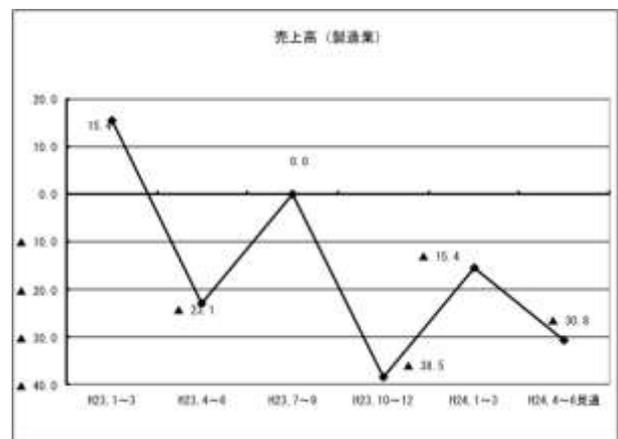
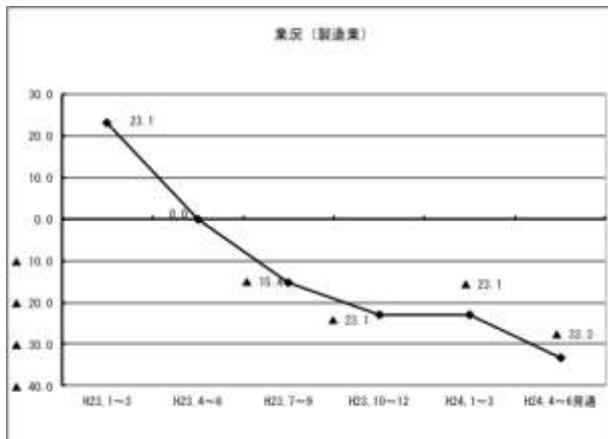
製造業

製造業の業況DIは▲23.1で前回調査と同じであった。前回調査まで4四半期連続で指数が下落していたのであるが、今回調査でようやく下落が止まった。しかし、4～6月期見通しでは▲33.3と再び指数が下落しており、回復に向うという感じではなさそうである。売上高DIは▲15.4とこちらは前回調査より上昇している。

売上高は過去1年をみるとのこぎりの歯のように上下を繰り返しながら緩やかに下落を続けている。4～6月期見通しでも▲30.8と1～3月期実績とは逆の動きを見せている。

採算（経常利益）DIは▲30.8となり、前回調査での上昇したものの今回は下落に転じた。気になるのは、4～6月期見通しの採算DIが▲61.5となっていることであり、売上高の減少、原材料費の上昇などが採算を圧迫していると思われる。

資金繰りDIは前回調査に引き続き0.0で安定しているように見えるが、4～6月期見通しでは▲20.0となっており、資金繰りでも悪化傾向が出てきつつあるのかもしれない。



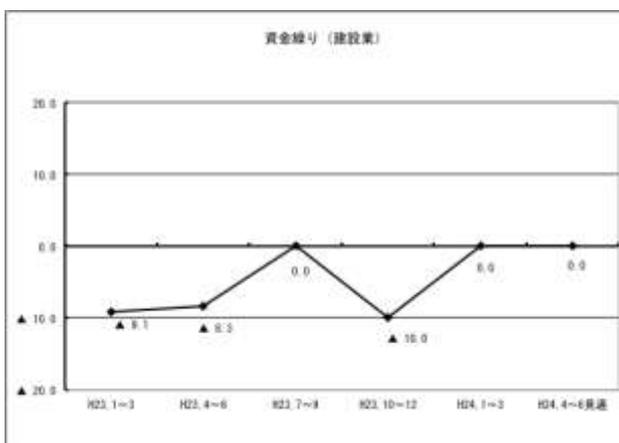
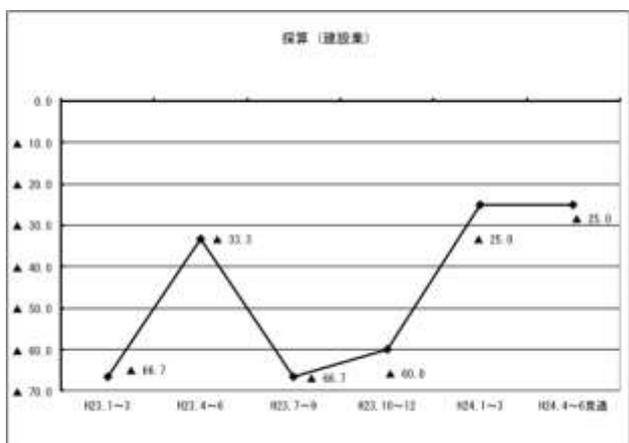
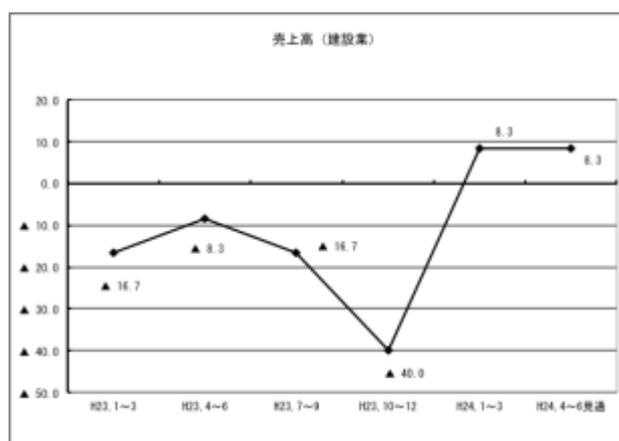
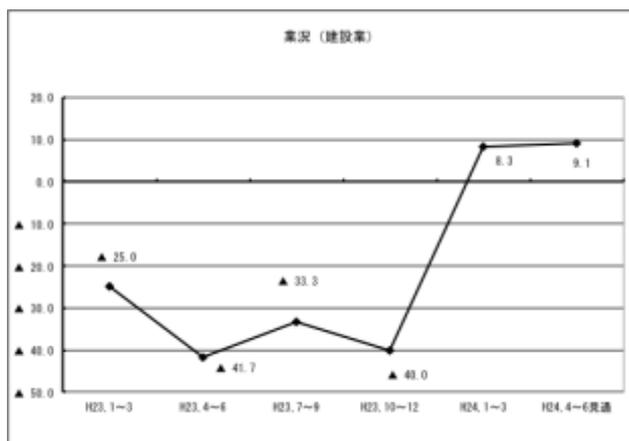
建設業

建設業の業況 DI は 8.3 であった。前回調査の▲40.0 から 48.3 ポイントの上昇である。過去の調査を見ると 1~3 月期は業況 DI が上昇する傾向があるが、今回調査の上昇幅は過去最高となっている。この勢いは 4~6 月期見通しでも続くと予想されており 9.1 とさらに上昇している。

売上高 DI は 8.3 であった。前回調査の▲40.0 からプラス指数に転じた。平成 23 年 1~3 月期との比較でも平成 23 年 10~12 月期と比較しても売上高が高くなったとする回答が多かった。特に、平成 23 年 10~12 月期との比較では半数以上が売上高が上昇したと回答しているのが目を引く。4~6 月期見通しでも今回調査と同じく 8.3 であるので、売上高は堅調のようである。

採算（経常利益）DI は、▲25.0 と前回調査の▲60.0 から 35 ポイント上昇した。指数自体はマイナス域ではあるが、採算性の改善が見られるようである。また、1~3 月期に単独の採算では 16.7 とプラス指数になっている。4~6 月期見通しの採算は▲25.0 となったおり、採算のさらなる改善とは言いがたいようである。

資金繰り DI は 0.0 となった。この指標は建設業の調査の中では比較の変動の少ない指標であるので、資金繰りが大きく変動するようなことは少ないのかもしれない。4~6 月期見通しでも 0.0 となっている。



サービス業

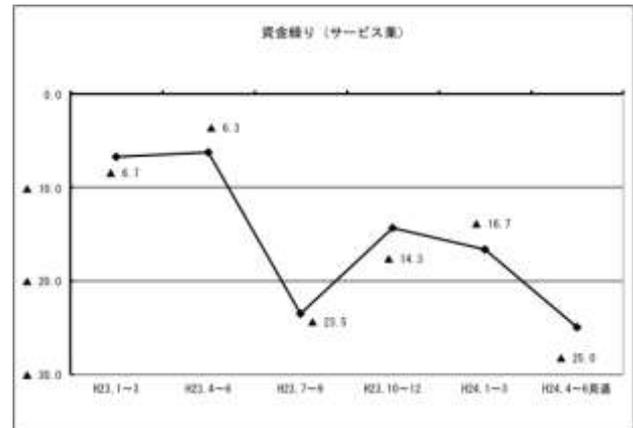
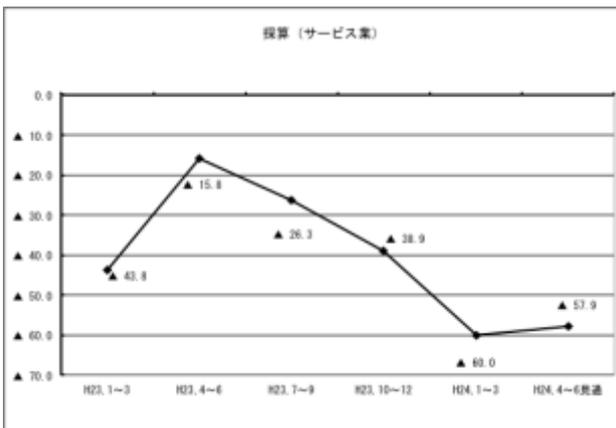
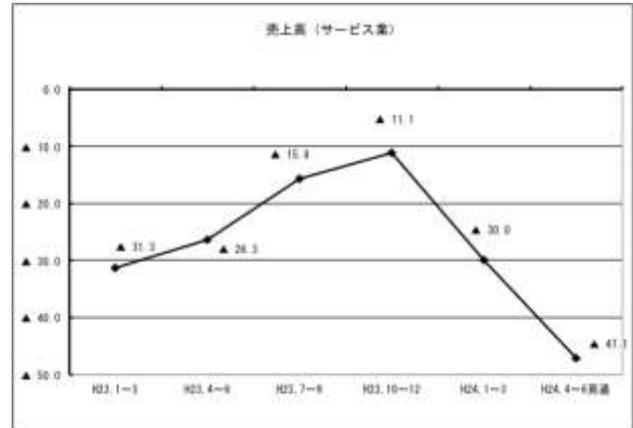
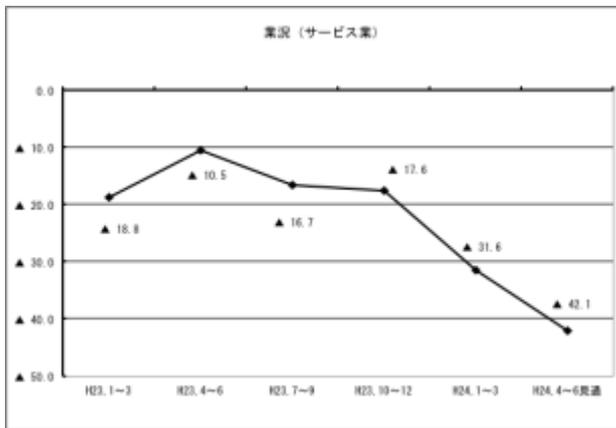
サービス業の業況DIは▲31.6と前回調査よりも14ポイント悪化した。これで3四半期連続の下落となった。今回調査では、過去1年間で最低の指数となったことに加え、下落幅も最大となっている。4～6月期見通しではこれよりさらに下落して、▲42.1であり反転する気配が感じられない。

売上高DIは▲30.0であった。前回調査が▲11.1であったので、18.9ポイントの下落である。4～6月期見通しは▲47.1となっている。

採算（経常利益）DIは▲60.0と過去1年で最低の指数となった。4～6月期見通しは▲57.9とわずかに指数の上昇が見られるが、大きく改善するようではない。

資金繰りDIは▲16.7と前回調査に比べて2.4ポイント下落した。4～6月期見通しは▲25.0となっており、資金繰りも好転しそうに見えない。

サービス業は上記4指標全てで指数が下落しており、この結果を見る限りかなり厳しい状態が続いていると考えられる。



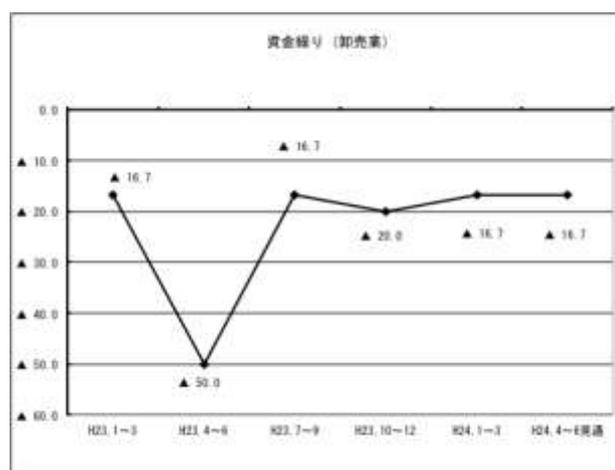
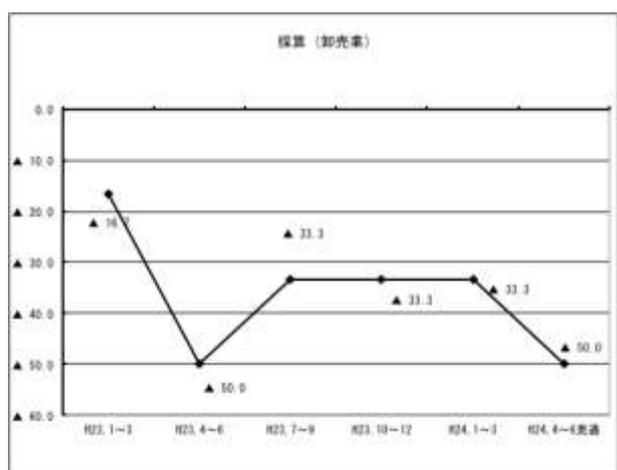
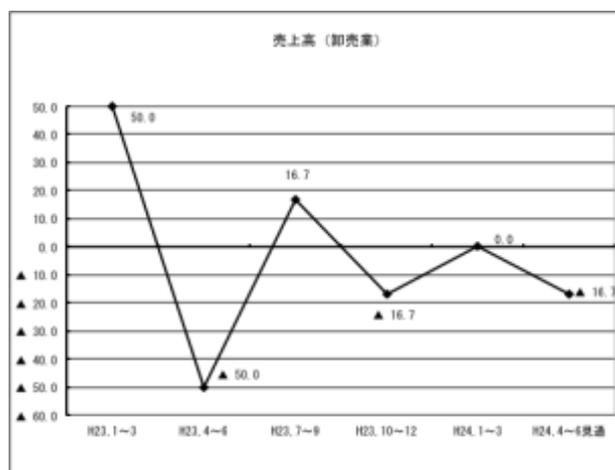
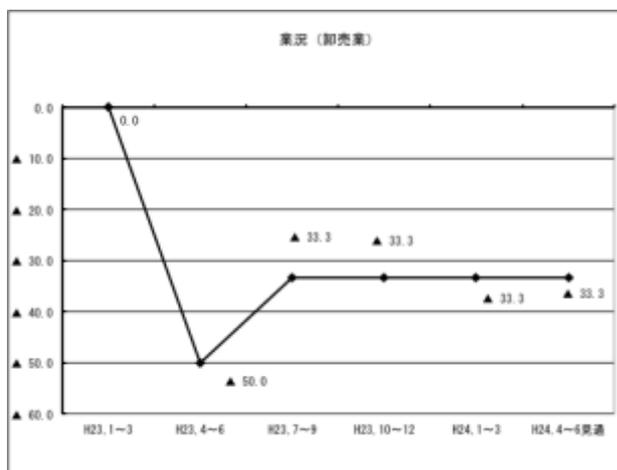
卸売業

卸売業の業況 DI は▲33.3 と前回調査と同じ指数となった。3 四半期連続で▲33.3 と全く横ばい状態になっている。4～6 月期見通しでも▲33.3 であり、状況が膠着状態にあるようである。

売上高 DI は 0.0 となり、前回の▲16.7 から回復した。ただし、卸売業の売上高 DI は過去 1 年を見ても 50.0→▲50.0→16.7→▲16.7→0.0 というように大きく動く傾向にあり、今回の結果が直ちに回復につながるのには簡単に判断ができないといえる。4～6 月期見通しでも▲16.7 と反転悪化を示していることでもそれがわかる。

採算（経常利益）DI は▲33.3 で前回調査と同じ結果であった。3 四半期連続で▲33.3 である。4～6 月期見通しは▲50.0 であるので、採算性が今後悪化する懸念がある。

資金繰り DI は▲16.7 で前回調査より 3.3 ポイント上昇した。3 四半期前の平成 23 年 4～6 月期が▲50.0 でその後は今回調査並みの指数が出ているので、DI 指数としては低位安定しているようである。4～6 月期見通しでも▲16.7 なのでこの傾向に変化はなさそうである。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	1月～3月 期動向	4～6月期見 通し	1月～3月期 動向	4～6月期見 通し	1月～3月期 動向	4～6月期見 通し
全体	▲30.4	▲36.4	▲23.9	▲30.9	▲44.9	▲46.4
小売業	▲57.9	▲61.1	▲50.0	▲45.0	▲55.6	▲36.8
製造業	▲23.1	▲33.3	▲15.4	▲30.8	▲30.8	▲61.5
建設業	8.3	9.1	8.3	8.3	▲25.0	▲25.0
サービス業	▲31.6	▲42.1	▲30.0	▲47.1	▲60.0	▲57.9
卸売業	▲33.3	▲33.3	0.0	▲16.7	▲33.3	▲50.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1月～3月 期動向	4～6月期見 通し	1月～3月期 動向	4～6月期見 通し	1月～3月期 動向	4～6月期見 通し
全体	2.8	▲15.9	▲14.7	▲30.8	▲10.3	▲6.1
小売業	10.0	▲15.0	▲11.8	▲23.5	▲11.8	▲12.5
製造業	38.5	▲8.3	▲23.1	▲33.3	7.7	7.7
建設業	16.7	▲9.1	25.0	18.2	▲16.7	▲8.3
サービス業	▲35.0	▲25.0	▲30.0	▲31.6	▲25.0	▲10.5
卸売業	0.0	▲16.7	▲33.3	▲33.3	16.7	0.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1月～3月 期動向	4～6月期見 通し	1月～3月期 動向	4～6月期見 通し	1月～3月期 動向	4～6月期見 通し
全体	▲14.1	▲17.7	▲3.8	▲1.8	4.1	1.9
小売業	▲29.4	▲22.2	0.0	14.3	20.0	15.4
製造業	0.0	▲20.0	9.1	9.1	10.0	10.0
建設業	0.0	0.0	▲18.2	▲18.2	▲9.1	▲9.1
サービス業	▲16.7	▲25.0	▲13.3	▲18.8	0.0	▲7.1
卸売業	▲16.7	▲16.7	20.0	20.0	0.0	0.0

過去からの動向

